英和３月期

ＤＸ・ＧＸ好調で最高

今期、化学向けは減収予測

阿部社長

工業・産業用機器を扱う英和は、ＤＸ（デジタルトランスフォーメーション）やＧＸ（グリーントランスフォーメーション）関連需要の取り込みにより、２０２６年３月期に過去最高業績を更新した。一方、今期は人的資本投資や社内ＤＸ投資を拡大するため減益を見込む。また、中東情勢の緊迫化にともなうサプライチェーン混乱への警戒感も強めており、化学業界向け販売は設備投資の慎重化を背景に減収を見込む。

26年３月期の業績は、売上高が前期比３・６％増の４８８億４６００万円、営業利益が６・８％増の29億７５００万円、経常利益が６・７％増の30億４４００万円、純利益が５・９％増の20億７０００万円だった。造船業界の高稼働を背景とした関連機器販売の増加に加え、化学や鉄鋼業界における設備更新や保全効率化投資の取り込みが寄与。造船向けの売上高は前期比10億１３００万円増、鉄鋼・金属製品向けが４億１１００万円増、化学向けは３億７３００万円増加した。また、ＤＸ関連投資を背景とした提案も伸長し、高付加価値営業の推進により収益性も向上した。

今期は売上高４８５億円、営業利益26億６０００万円、経常利益27億２０００万円、純利益18億５０００万円を計画する。新人事制度導入にともなう人件費増加や人材育成、社内ＤＸ・情報基盤整備など将来の成長に向けた先行投資を織り込み、減益を見込む。

阿部吉典社長は４日の決算説明会で、「中長期的な成長力の強化を重視する年度」と説明した。

事業環境については、中東情勢の緊迫化による原材料や副資材の供給不安を懸念する。化学業界向けは定期修理や設備更新需要が見込まれる一方、「原料となるナフサやエチレンをめぐる不透明感から設備投資の縮小や延期が発生する可能性がある」（阿部社長）とみる。同業界向け売上高は前期比３億２２００万円減を見込む。造船業界向けは受注残を背景に高水準の稼働が続いており、関連機器販売の増加を見込む。また、半導体市場の回復を背景に製造用機械・電気機器業界向けも堅調に推移すると予想している。

今期は中期経営計画の最終年度。ＤＸへの投資を進め、中長期的な成長基盤を強化する。

出典：化学工業日報　2026年6月9日 第9面